

# 稲作だより第1号

令和 7年 7月 23日 発行

J A福岡市東部 福岡市農業指導センター農産班

## ～生育概要～

今年は梅雨明けが平年より22日早く、観測史上最も早い6月27日となりました。その後は高温・少雨傾向で、日照時間も多くなっています。茎数の確保も順調で全般的に生育は良好です。また、病害虫の発生はほとんど見られませんが、ジャンボタニシによる食害が目立つ圃場が見られます。

7月21日 現在	平均気温(°C)			日照時間(hr)			降水量(mm)		
	平年	今年	平年差	平年	今年	平年比(%)	平年	今年	平年比(%)
5月下旬	20.1	18.5	-1.6	71.9	45.6	63.4	34.6	55.5	160.4
6月上旬	21.3	21.2	-0.1	54.4	46.5	85.5	37.4	71.5	191.2
6月中旬	22.6	25.5	2.9	48.6	45.9	94.4	82.7	22.5	27.2
6月下旬	23.9	26.4	2.5	33.7	59.0	175.1	123.2	41.5	33.7
7月上旬	25.6	28.9	3.3	41.6	110.1	264.7	148.7	22.5	15.1
7月中旬	26.9	28.1	1.2	56.1	62.6	111.6	92.4	68.5	74.1

## 1. 病害虫の発生状況

### 【病気】

#### (1) いもち病

現時点では、管内の圃場では見られておりません。

**※置き苗は早急に処分してください。いもち病の発生源になり危険です。**

#### (2) 紋枯病

紋枯病は、高温傾向で降雨が多いと発生が多くなり、上位葉への進展も盛んになって被害も大きくなります。

毎年発生する圃場は注意しましょう。特に、畦が無く、コンクリート壁に囲まれているような田んぼでは、夜になってもなかなか温度が下がらないため、発生しやすい傾向にあります。



### 【害虫】

#### (1) セジロウンカ・コブノメイガ

6月20日前後に若干飛来していますが、セジロウンカは見られず、コブノメイガも早植え圃場でわずかに見られる程度です。もし見つけても防除の必要はありません。

#### (2) トビイロウンカ (秋ウンカ)

上記の害虫と同時期に若干飛来していますが、管内の調査では見られておりません。しかし、念のため今後の発生には注意を払っておいてください。田植え時に「防人箱粒剤」「スクラム箱粒剤」「ブーンハーデス箱粒剤」を使用されていない方は、特に注意を払っていただくようお願いします。**昨年も箱粒剤を使用していない圃場の一部で「坪枯れ」が発生しました。**

トビイロウンカの特徴として『**褐色で脂ぎったような色の小さいセミ**』のような虫となって

いますので、ご自分の圃場にいないか十分に観察して下さい。  
今後も稲作だよりで発生状況をお知らせしていきますのでご参考ください。



坪枯れ

(3) イネカメムシ

近年、全国的にも**発生が急拡大している要注意害虫**です。当 JA 管内でも全域で発生を確認しております。防除対策としては2つあります。

①出穂開花期の籾の吸汁による不稔籾の発生防止対策

周辺に比べ出穂期が早い**夢つくし**や逆に遅い**ヒヨクモチ**では集中して飛来する恐れがあり、**要警戒**です。

【防除】 出穂5～7日前 スタークル豆つぶ 250 g /10a  
 または  
 スタークル粒剤 3 kg /10a



②乳熟期以降の籾の吸汁による基部型斑点米発生防止対策

イネカメムシは斑点米の生産能力が高いため、**すべての品種で要警戒**です。

【防除】 穂揃期頃 スタークル豆つぶ 250 g /10a  
 または  
 スタークル粒剤 3 kg /10a

**※他の斑点米カメムシ類も一緒に防除できます。**

なお、液剤や粉剤を使用される場合は散布時期が異なりますので、使用に当たってはご相談ください。



基部型斑点米

(4) 斑点米カメムシ類 (今年は多発生の予想)

畦等のイネ科雑草の穂を吸って増殖し、稲の出穂後、田んぼに侵入します。薬剤防除だけでなく、日ごろの雑草管理と合わせて総合的な防除を行ってください。

畔草刈りは、出穂期10～14日前までに終了し、出穂10日前(穂ばらみ期)～出穂後20日間は草刈りをしないようにしてください。

薬剤散布のタイミングは、粒剤であれば【出穂期～穂揃期頃】  
 粉剤・水和剤であれば【出穂期の7～10日後】が基本となります

2. 今後の管理の注意点

(1) 水管理

多くの圃場で中干しは終了もしくは実施中と思われます。6月21～22日田植えの圃場でも有効茎数を確保できていると思われますので、中干しを行っていない圃場は早急に開始してください。

水稻の生育ステージ	無効分げつ期	幼穂形成期	出穂期	登熟期	成熟期
水管理	中干し	間断灌水	浅水湛水	間断灌水	落水

### <中干し後の水管理>

- ・ **中干し後は間断灌水**を行ってください。「水を入れ、自然に落ちるまで待つて、2日程度した後に、また水を入れる」といった管理になります。根の活力を維持し、登熟を支えていくために重要な管理です。
- ・ なお、出穂期前後7日程度は、稲の一生の中で、最も水が必要な時期です。水を切らさないようにしてください。
- ・ **台風襲来時は、深水**にして稲を保護してあげることが大切です。台風通過後も数日間は湛水状態を保ってください。

### (2) 出穂期予想と穂肥施用

品種	田植日	出穂期予想
夢つくし	5月17日	7月28日頃
	5月24日	8月 1日頃
	6月 7日	8月 8日頃
元気つくし	5月17日	8月 2日頃
	6月 7日	8月10日頃
	6月14日	8月14日頃
	6月21日	8月18日頃
ヒノヒカリ	6月 1日	8月20日頃
	6月 7日	8月21日頃
	6月14日	8月24日頃
	6月21日	8月26日頃

**赤とんぼの里やベスト化成 444、尿硫磷 48**を使われる場合には**出穂期予想の 20～18 日前頃**に、**油粕**を使われる場合には**出穂期予想の 25～27 日前頃**に穂肥を施用しましょう。

**元気つくしの穂肥は2回**です。1回目施用後7日後に2回目を施用してください。

**各品種の施肥量に関しては、稲作ごよみ**でご確認ください。

**なお、どの品種も元肥に一発型肥料を使用している圃場では、基本的に穂肥は必要ありませんが、葉色が薄い(畦のイネ科雑草と同じ色)場合は、出穂の10日程前に化成肥料(ベスト化成444等)を10kg/10a程度施用してください。**

### 3. その他

#### <農作業安全>

台風や大雨の対策は極力前日までに行い、**水が引くまでは用水路等の危ない場所には近づかない**ようにしましょう。**稲は1日冠水しても大丈夫な作物です**。台風や大雨が過ぎ去った後で被害状況を確認しましょう。

また、農作業は可能な限り、朝夕の比較的涼しい時間帯に行いましょう。**作業時間を決め、定期的に休憩を取り、水分並びに塩分を補給するよう心掛け**ましょう。

#### <中後期除草剤>

田植え後に散布した除草剤の効果が不十分で雑草が残っている場合には、下記の薬剤でご対応下さい。

<b>クリンチャーバスME液剤</b>	ヒエ・広葉	収穫50日前まで	<b>落水又は極浅水</b> での散布
<b>トドメバスMF液剤</b>	ヒエ・広葉	収穫50日前まで	<b>落水又は極浅水</b> での散布
<b>バサグラン粒剤</b>	広葉のみ	収穫60日前まで	<b>落水又は極浅水</b> での散布

内容に関する問い合わせは、営農生活課または各支店の営農経済担当者へ

## 営農情報について

### ①最新の情報を LINE でお届けいたします。

営農情報（稲作だより等）を「JA 福岡市東部 営農情報」の LINE でも発信しております。下記のQRコードから LINE のご登録をお願いいたします。



### ②稲作だより等の情報が下記のQRコードよりご覧いただけます。



※今後の発行スケジュールですが「稲作だより 2号」をお盆前に、「稲作だより 3号」を8月末から9月初頭、「稲作だより 4号」を年末にと考えておりますので、ご参考下さい。

## 糶摺り加工場予約方法について

7月末発行の Pure にて「予約アプリの使用方法」のご案内を差し上げると説明会・Pure にてお知らせしておりましたが、予約アプリの納品が若干遅れております。

盆前に発送する「稲作だより 2号」に予約アプリの使用方法を同封することとしております。

ご案内が遅くなりまして申し訳ございません。